

使って得 ジェネリック医薬品

「薬代」で医療費を節約しましょう!



ジェネリックは
新薬と同じ効きめなのに
安くてお得ですよ!



安いのはうれしいけど、ちょっと不安

そんなあなたには、AGがおすすめです



ジェネリック医薬品は、新薬(先発医薬品)の特許期間が切れた後に、ジェネリック医薬品メーカーが新薬と同じ有効成分を使って製造・販売する薬です。厚生労働省が定める品質基準をクリアして承認を受けているので、効きめや安全性、品質は新薬と同等ですが、新薬ほど開発費用が掛からないので価格は新薬の約2〜7割で販売されます。生活習慣病薬のように服薬期間が長い薬ほど節約できる額が大きくなります。

長期間服用するほど“得”

花粉症の薬 (アレグラの場合)		高血圧の薬 (ディオバンの場合)	
新薬	11,500円	新薬	9,310円
ジェネリック	3,360円	ジェネリック	2,280円
8,140円 “得”		7,030円 “得”	

*1年間、自己負担3割の場合の薬価のみの比較です(2020年4月現在)

AG(オーソライズド・ジェネリック)とは、新薬メーカーから特許使用の許諾を得たメーカーが、原料となる薬・添加物・製造方法などほとんどすべてを新薬と同一にして製造するジェネリック医薬品のことで、一般のジェネリック医薬品よりも優先的に早く販売することができます。

また、新薬メーカーの系列会社が、新薬と同じ工場や生産ラインで製造し、他メーカーに先駆けて販売されることもあります。

医療費負担の軽減に役立つジェネリック医薬品を希望する患者が年々増えているなか、新薬との同一性が評価される「AG」の登場により、さらにジェネリック医薬品の人気を押し上げています。

早速ジェネリックでお願いします!!



※AGとはAuthorized Generic(許諾を受けたジェネリック医薬品)の略です。

※すべての薬にジェネリック医薬品、AGがあるわけではありません。

ジェネリックを希望するときは

①診察のとき

かかりつけの医師に、ジェネリックの処方ができるかを相談してみましょう。

②処方箋をもらったら

処方箋の「変更不可」の欄にチェックがないことを確認してください。チェックがある場合には、ジェネリックに変更することができません。

③調剤薬局で処方箋を渡すとき

薬剤師にジェネリックを希望することを伝えましょう。

当健保ではジェネリック差額通知を発行しています

当健保では、医師からの処方により薬を購入された方で、ジェネリック医薬品に切り替えることにより500円以上の差額が出る場合、ジェネリック差額通知を3カ月ごとに年4回、個人別にご自宅へ送付しています。

調剤ごとに、ジェネリックに切り替えるといくら節約できるか一目で分かります。医療費を節約するためにも、この機会にジェネリックに切り替えてみましょう。

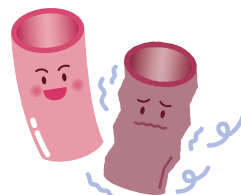
冬の寒さは血管の大敵です!

寒暖差による
動脈硬化に
ご注意ください

寒さが厳しくなると、体温を逃がさないように血管が収縮するため、血圧が上がります。特に、暖かい場所から寒い場所へ移動したときの寒暖差は、血圧を急上昇させ、血管に負担をかけて動脈硬化の悪化をまねきます。冬は生活習慣に加え、急激な温度変化にも注意して、血管をしなやかに保ちましょう。

※急激な温度変化で体がダメージを受けることを「ヒートショック」といいます。

監修：特定非営利活動法人健康経営研究会理事長
労働衛生コンサルタント 岡田邦夫



詳しくはWEBで▶

